

「あなたの父と母を敬いなさい」

出エジプト記 20章 12節
マタイによる福音書 22章 35節～40節

説 教 軽込 昇牧師

イスラエルの人々がエジプトを出るとき、モーセに神様は二枚の石の板に十の戒めをお書きになってお与えくださいました。一枚目の板には第一から第四の戒めが、二枚目の板には第五から第十の戒めが書かれていました。そして二枚目の最初に書かれていたのが、本日私たちが受け取っている第五の「あなたの父と母を敬いなさい」であると考えられています。

二枚目の板の「殺してはならない」「盗んではならない」のような戒めは、神様を信じていない人々の間でも多く受け取られ、そのために私たちはイエス・キリスト抜きで受け取ってしまう過ちをおかしかねません。「あなたの父と母を敬いなさい」もイエス様とのつながりにおいて受け止めなければならない戒めです。

イエス・キリストは戒めの中で何が一番大切かと問われて「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」この二つだとお答えになりました（マタイによる福音書第22章）。前者は第一の板、後者は第二の板の戒めと受け取れます。「あなたの父と母を敬いなさい」の戒めが第一の板と第二の板を結び合わせるといことは、この戒めはすべての人、子どもたちに・大人になった人に・父母が神様のもとに行ってしまった人に関係するということです。ですから、私は「父と母を敬いなさい」という戒めを受け取る人を三つに分けてお話ししようと思っています。

第一は、子どもに対しての戒めです。親を受け入れることは自分を受け入れること、また、自分を存在させてくださった神様を受け入れることです。大人になるためにどうしても通過しなければならない段階に反抗期があります。親に対する反抗と言いますが、本当の相手は神様です。神様を相手に、私たちが私たちになるためのものがきを繰り返す、神様が壁となって私たちをしっかりと受け止めてくださいます。

第二は、その子どもが大人になったとき。親が力をなくし老人になった時にどうするかは、その子どもにとっては難しい問題です。聖書の中で、老人問題は大変重い問題となっています。白髪は敬うべきものとされ、老人は尊敬されなければならないと何度も記されている、という

ことは現実にはその反対のことが多かったのではないかと思います。親が年寄り、その面倒を見るのが正直言って面倒くさいと思うものもいるかもしれません。ハイデルベルグ信仰問答の「父と母を敬いなさい」の項には、「過失を忍びなさい」という言葉さえありました。

第三に、親がいなくなった年代のものにとって「父と母を敬え」はどう関わるのか。老年になってからの第五の戒めは、実はすべての人に関わっています。自分自身をどこで受け入れるか、私たちはどこで支えられているかということです。お父さん・お母さんがいなくなったものにとっての「あなたの父と母を敬いなさい」は、あなたを受け入れてくださる神こそあなたの本当の相手だ、あなたは神につながってこそ本当に生きること、死ぬことができる、という戒めでもあります。「あなたの親と向き合いなさい」というよりは、「お父さんお母さんと並んで、一緒に神様を見上げなさい」ということです。夫と妻も同じです。「父と母を敬いなさい」わたしたちがこの戒めで受け取りたいのは、主イエス・キリストが私たちが愛してくださり、私たちを受け入れてくださっているということです。

第二の石の板にある戒めはどれも、主イエス・キリストが真ん中に立ってくださらなければ何の解決にもなりません。親と子、夫と妻、隣人同士、そこに神様が立ってくださらなければ殺し合い、盗み合い、憎み合う、そのただなかに主イエス・キリストがお立ちくださることで、初めて正しい関係が成り立つのです。わたしたちが親と並んで神様の方と一緒に見つめてこそ、初めてわたしたちは本当の親子になるのです。

私と誰かの間にイエス様がお立ち下さるには、練習が必要です。どんな練習か？お祈りする練習です。この練習は、しかし喜びの練習です。私と親の間にイエス様がおられるように、私のゆくべきところにイエス様がいてくださるように、そうお祈りして歩いてゆく。そこに私たちの命があります。そここそ、大阪教会という大きな家族です。ともに、イエス様の前に歩いてゆきましょう。